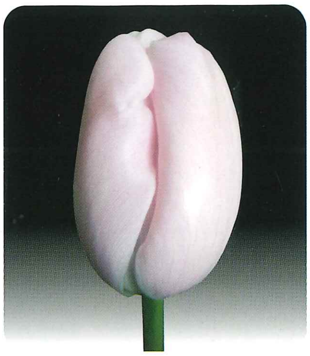
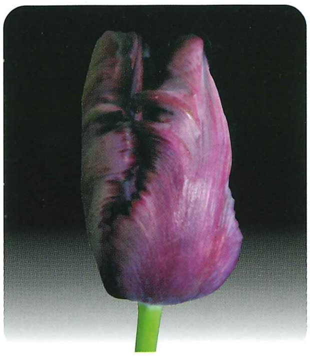
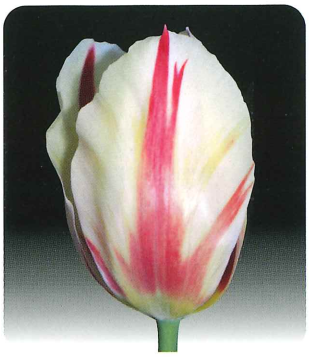
チューリップ四季だより



2005
初夏号
Vol.33

随筆

『原種チューリップの楽しみ』

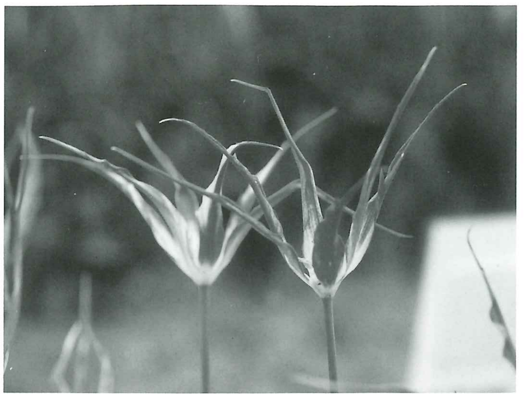
水戸市植物公園園長　西川　綾子

春の花壇にかかせないチューリップ。数多い品種の中で何を選ぼうか迷いますが、花壇の中で「これぞチューリップ花壇！」そんな華やかな花壇を演出したいなら、やっぱり園芸品種のあでやかな種類になるでしょう。

でも私が好きなのは、実は華やかな花よりもちょっと控えめで、一度見たら忘れられない魅力をもっている原種のチューリップたちなのです。

もう十八年くらい前になるでしょうか。職場である水戸市植物公園の花壇で使ったチューリップの中でアクミナタがありました。花びらがとにかく細い！花が咲くと、細い炎が花壇の中で揺れているように見えるのです。草丈は四十センチていど、原産地は不明です。ユリ咲き系チューリップの親になった、と言われていますから種子が取りやすいのでしょう。「美しい」というより変わった花。一カ所に三～五球をまとめて植えるようにし、淡いピンクのチロリアンデージーや空色のネモフィラのようなパステルカラーの花色で、草丈がさほど高くない間に数カ所植えれば、炎のような花が浮き出て見えるでしょう。

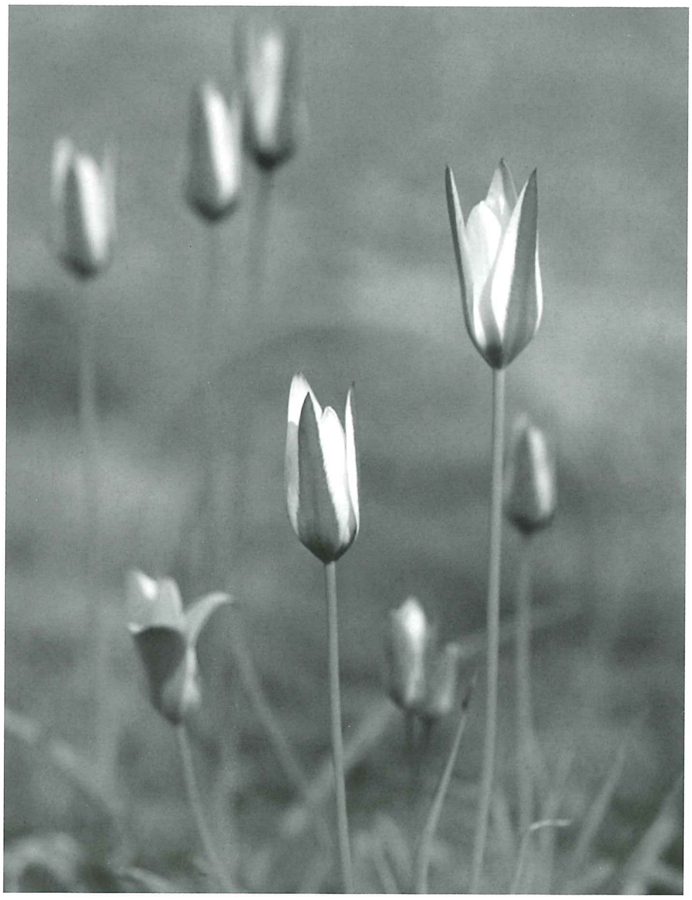
翌年、予期せぬ所から勝手に咲いていたものの、いつの間にやら姿が見えなくなりました。種子でけっこう増えるようだから、あの時、種子を取っておけばよかった、といまだに後悔しています。国内の種苗カタログでは見たことがありません。初恋の人にまた会いたい～そんな気分になるのが私にとってのアクミナタ



▲アクミナタ －炎のような奇形のような花

▲サクサティリス －ピンクの花が満開

です。
　ところでチューリップはスイセンの球根のように植えっぱなしはいけません～というのが、定説ですよね。しかしサクサティリスに関しては植えたままにしておいても、けっこう花が開いてくれます。四月に咲くピンクの花は五～六センチで、全開すると基部の黄色の部分が見えてさらに可愛い。花茎は二十～三十センチで二花くらい咲き、葉は光沢があります。水戸では何年も植えたままにしてありますが、一月になると、もう葉が何枚も出ています。雑木林の手前に植えてあるので、冬から春にかけてはよく光が当たり、夏が木々の木陰で涼しくなる場所なのがいいのでしょう。花が終わればお礼肥えをして、おなかがすかないように栄養補給をし、ストレスを感じさせない場所に植えるのがコツのようです。ちょっと花が小さめのリナリア、スイートアリッサム、ローンデージーなどと組み合わせたり、花壇なら煉瓦で囲いをした中でまとめて植える、また芝生の中に穴を開けて球根を植えるなど工夫をしましょう。自生地はクレタ島の石の多い原野といいます。ロックガーデン風に石を添えた中に植え込んでみるのも楽しそうです。



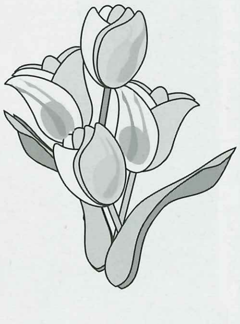
▲クルシアナ －細い花びらのもの

　さて、「貴婦人のチューリップ」の名前で十七世紀からヨーロッパで愛されていたチューリップはクルシアナ。曇った日に閉じた花を見ると赤に白の縁取りがある花のように見えますが、晴れた日にこの花を見ると、白色の花びらが白と赤の花びらが交互に色分けしたようになって、それは鮮やかに見えるのです。
　花びらは長さが五センチ、幅は二センチていどで細め。草丈は二十五センチで、チューリップとしてはミニタイプです。ぜひ十～二十球くらいをまとめて植え、ゴージャスに楽しんで下さい。数球植えただけでは、ちょっと寂しい感じがします。
　水戸では日当たりのよい木の下に植えたままにしてありますが、毎年四月上旬に咲いています。この頃に咲くリナリア、ペーパーデージー等と共に、小さなブーケ風の花束を作るとかわいらしくできます。
　原種のチューリップの多くは、園芸種より小さい球根で花も小さめです。そして派手ではありませんが、素朴な優しい花が咲きます。種類によっては、植えたままでも翌年咲いてくる強さを持っています。その特徴を活かした使い方を考え、居心地のよい場所を与えてあげれば、きっとあなたの新しいパートナーになるはず。この春、どこかで原種のチューリップの花をご覧になって、お気に召したら、秋にはぜひ植えてみて下さいね。

【略歴】

にしかわ　あやこ

東京都出身。筑波大学で花卉園芸学を専攻。昭和六十二年四月に水戸市植物公園が開園するにあたり、水戸市植物公園に勤務する。平成五年に、水戸市植物公園園長になり、現在に至る。NHK趣味の園芸で講師を行う。
　主な著書にNHK出版「サルビア」、共著に「園芸入門」など。



県内News

富山県産 チューリップの人気ランキング

―「チューリップ王国とやま in 大田花き」― より

今年の二月七日から十一日までの五日間、富山県園芸振興推進協議会と砺波市、高岡市、入善町、朝日町の切花生産者などが連携し、東京の大田花き市場で「チューリップ王国とやま in 大田花き」が開催されました。その中で行われた、富山県産チューリップ切花七十四品種の人気投票の結果をご紹介いたします。

順位	品種名
1位	ウイッティーピクチャー
2位	アンジェリケ
3位	ピンクダイヤモンド
3位	フレミングパーロット
4位	ズレル
5位	春

ズレル

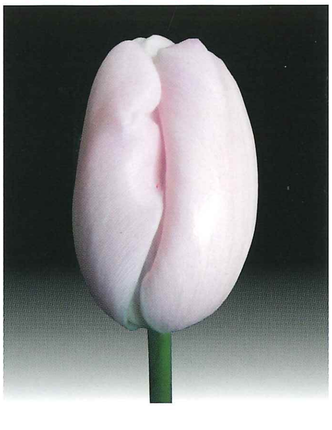
春

1位 ウイッティーピクチャー

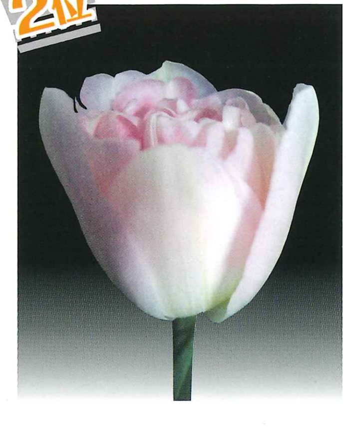
3位

フレミングパーロット

ピンクダイヤモンド



2位 アンジェリケ



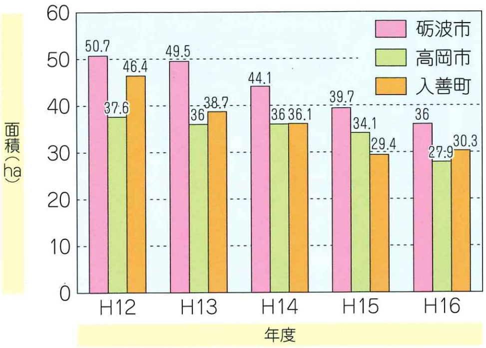
ホームページ チューリップ王国とやま 完成

この春、富山県から『チューリップ王国とやま』のホームページができあがりました。このホームページでは、富山県内のチューリップ球根生産・切花栽培や富山生まれのオリジナルチューリップの紹介、チューリップの基礎知識、チューリップの楽しみ方等とやまのチューリップに関するあらゆる情報が得られます。富山県内で生産されている品種を中心に、品種の名前や特徴からチューリップを検索できる写真つきの二五〇品種のデータベースもありますので、興味のある方はぜひご覧ください。

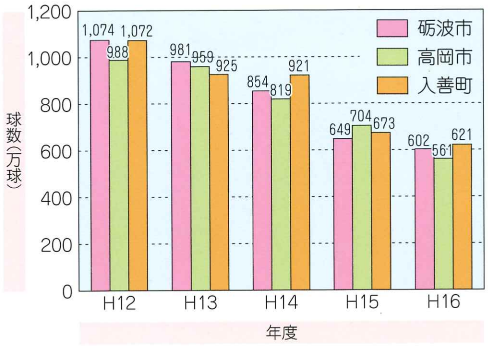
URL　http://tulip.agri.pref.toyama.jp/　〈富山県農林水産部食料政策課〉

富山県内の球根生産

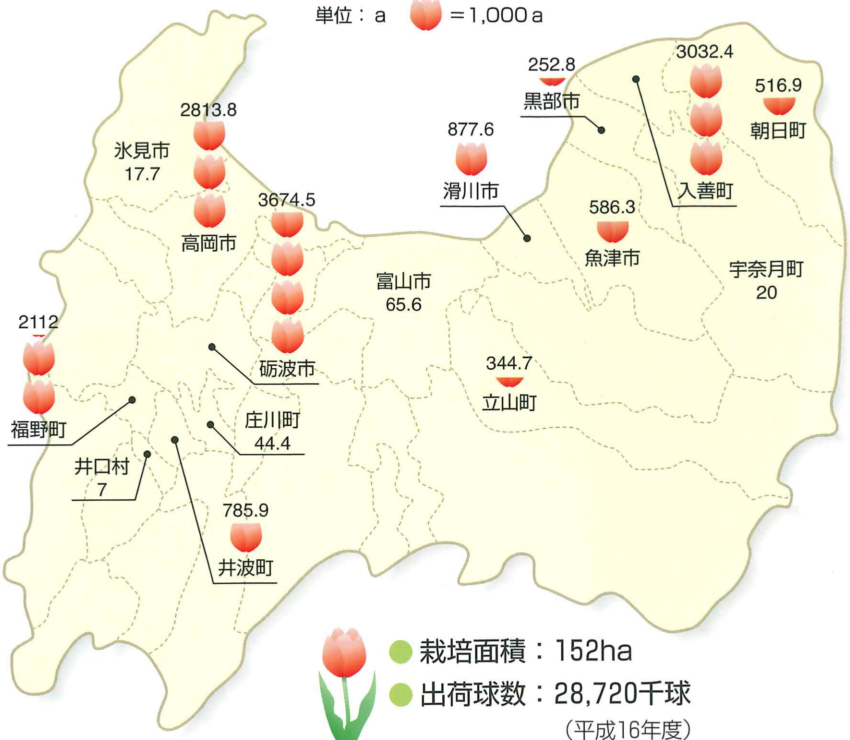
主要な球根産地（市町村）の栽培面積の推移



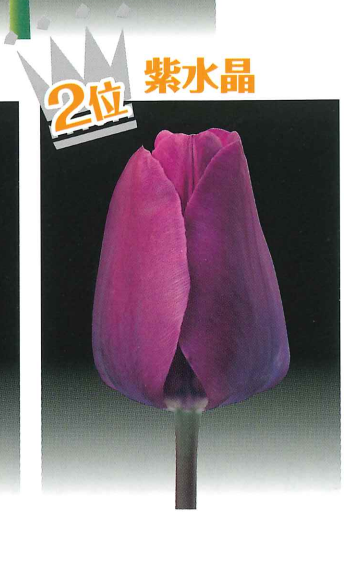
主要な球根産地（市町村）の出荷球数の推移



栽培面積



● 栽培面積：152ha
● 出荷球数：28,720千球
（平成16年度）



品種別作付面積ランキング

（　）作付面積／平成17年度

- 1位 **黄小町** (989.5a)
- 2位 **紫水晶** (615.5a)
- 3位 **白雪姫** (568.7a)
- 4位 **ピンクインプレッション** (524.8a)
- 5位 **ピンクダイヤモンド** (472.9a)

資料及び写真提供
富山県農林水産部食料政策課、富山県花卉球根農業協同組合

Tulip History

チューリップの歴史
オランダ編
パート2

～歴史的球根の宝庫「球根栽培博物館」(オランダ球根博物館発行)より～

1924 ▶1945

『二人の人物の物語』

一九二四年、オランダ北部の村リンメンの小学校校長ピーター・ボスマンは、取り引きされているチューリップの品種に変化が生じていることに気が付きました。古くから栽培されていた品種が減少の一途をたどっていたのです。熱心な校長は、もはや生産者の興味が失われた品種を、収集することに決めました。その当時から生産者は、規則正しく効率的に品種を増やせるようにその分類を書き換えていました。古くから名前の知られた丈夫な品種は、大部分が優美さに欠けるものでした。いつの時代も違わず、球根生産者はよく売れそうな品種に関心を抱いたのでしょう。

ピーター・ボスマンは、生産者の畑に近い校庭に彼の最初のコレクションである数多くのチューリップ品種と十二品種のスイセンを植えました。彼は、昼は小学校で子供たちを教え、夜間は地元の人に園芸講座を開きました。彼の人を引きつける熱心な教え方が話題を呼び、夜間学校は急速に広まり助手が必要となる程でした。

校長の熱意は花壇や学校だけにとどまらず、村の行事も多数企画しました。彼は、ハールレム球根生産者協会（一九五三年には国立となりKAVBとなる）のリンメン支所と共同でコンテストを企画したことから販売業者に球根のコレクションとその知識を披露する機会を得ました。彼の家の庭とその周辺を会場に、参加者は二五〇余りの品種を識別して書き記さなければなりません。

当時、彼は時代遅れの自分の品種コレクションが、将来どれだけ重要になるのか想像していませんでした。小学校の授業があるためリンメンに限られてはいましたが、自宅の庭が一杯になると彼は新しい土地を探さなければいけません。

こうして、彼のコレクションは数年間であちこちへ移動し、品種数は既に約四〇〇にまで増えていました。

ヒヤシンスの歴史

一九二〇年代の終り頃、ピーター・ボスマンは、科学者でヒヤシンスの育種家として有名なウィリアム・E・デ・モル博士に連絡を取りました。博士の業績の一つは、X線を使うことによって遺伝性のある突然変異体を増やすことに成功したことです。

彼はアムステルダムに住み高校の教師をしていましたが、あまりに増えるコレクションでその都会にある家の庭を覆い尽くしていました。

ヴァン・ホフ&ブロッカー

一九二八年、ピーター・ボスマンは、旧友ニコラ・ブロッカーから、球根生産及び輸出業者であるヴァン・ホフ&ブロッカーが近くに所有する土地を無償提供したいという申し出があり、彼は喜んでそれを受け入れました。これが、「Hortus Bulborum（球根栽培博物館）」のはじまりです。六〇年以上にわたりほとんど無償で

▲チューリップ‘エステラ ラインベルト’
一重遅咲きチューリップ‘コーデル・ハル’の突然変異でできた品種。デ・モル博士のX線照射の実験によって作り出され、彼の妻の名にちなんで名付けられた。

この土地に植物資源が保存され、毎年その博物館の職員が球根をチェックし、掘り上げ、秋に新たに植え込むことを繰り返してきました。

花卉球根文化のための博物館

ピーター・ボスマンはさらに、一九三二年にM・Jスティーガーとともに博物館の設立を決めると、展示品や農具、そしてあらゆる文献を集め、翌年竣工式を行いました。球根販売には研究を伴う科学的なサポートがもっと必要だということを、校長は教育者として誰よりもよく理解していました。彼はあらゆる偏見と戦い、さらに専門的な意見を取り入れるため科学的分野との連携を強固なものにしました。

経歴は違っても同じ理念を分かち合う人々が、遺伝子や細胞の分野で観賞用植物の品種改良に取り組みました。

ネバーズィー協会

（オランダの観賞用植物の科学的進歩を奨励する協会）

一九三四年の終り頃、球根栽培博物館と品種保存園の業務をネバーズィー協会が引き継ぎました。ウィリアムE・デ・モル博士は初代園長に、ピーターボスマンは施設長、ニコラ・ブロッカーは理事会のメンバーとなり、翌年、公式にその協会が設立され、次の四つの目標をかかげました。

一・科学的関心。
二・全ての植物コレクションを掲載した雑誌や出版物を備えることによる、一般的な植物学的関心。
三・文化・歴史的関心。
四・博物館の開館に伴う一般市民への情報提供等の公的サービス。

もう一つ重要な仕事は協会誌「Herba Topiaria」の発行活動であり、研究や商業上の発展に関する興味深い記事が度々載せられました。

▲品種保存園（球根栽培博物館）

魔法の言葉

一九三〇年から四〇年代の特徴は昔ながらの品種の拡大でした。経済危機や戦争の影響で財源もわずかであり新たな創意のチャンスも難しい時代でしたが、それでもピーター・ボスマンの情熱は果てしなく、彼に「不可能」という言葉はありませんでした。

この頃、チューリップの分類を確立する転換期を迎えていました。小さな会社は他の農作物に切り換えざるを得なく、一方、大きな会社はさらに利益のあがる切り花に適した品種に切り換える等益々効率的な手段が重要視されました。

一九三七年には、ヘームスケーク近郊の大邸宅で花の展示会が開かれ、コレクションの見本が畑の外で初めて公開されました。この堂々たる館の周囲には様々な球根が植えられ、館の中にはデ・モル博士が作り出した品種が彼のたくさんの科学書とともに展示されました。

第二次世界大戦

ドイツ軍占領下時代は統制が厳しく、栽培地域のあちこちで多数の畑が消滅し球根栽培者達はとても苦しみました。しかし、ヴァン・ホフ&ブロッカー社の努力で、博物館の品種保存園は戦争を無傷で免れることができました。ネバーズィー協会が毎年行っていた「球根花の日」が当時の楽しいイベントでした。カフェでの恒例の講演の後、人々はリンメンの大型圃場を通り、ヴァン・ホフ&ブロッカー社の畑まで歴史的な古い品種のコレクションを見て歩きました。

占領下時代、リンメン村の校長とその仲間によって、ヒヤシンスが偶然を装ってオランダの国旗の順に赤→白→青色の列の順番に植えられ、また、追放されたオランダ王室の色であるオレンジ色の品種「オラニエ・ホーベン」が特別に展示された他、「クイーン・エマ」、「クイーン・オブ・ザ・ネザーランド」等王族の名にちなんで、たくさんの品種名が付けられました。これらはどれも優れた品種で、占領軍に対抗するひそかな民衆と王室との結束の現れでした。

チューリップ四季彩館
からのお知らせ

季節展示
『香りのフラワーガーデン －春の庭－』

かわいい花々が咲く風の丘。春の香り、花の香り、緑の香り。いろいろな香りを天使たちが届けてくれます。春の暖かな日差しの中、嬉しそうに咲く花々と香りにつつまれた楽しいひとときをお過ごしください。

とき　4／1（金）～6／14（火）

ところ　チューリップ四季彩館 テラス

チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2005年5月発行
(財) 砺波市花と緑の財団　〒939-1381 富山県砺波市中村100-1
TEL 0763-33-7716　FAX 0763-33-0090
URL http://www.tulipfair.or.jp